

阪神高速道路株式会社の平成18年度中間決算のポイント

(対象期間;平成18年4月1日～平成18年9月30日)

- ・当期の一日平均通行台数は、917千台(前年比0.1%増加)
- ・ETC普及率は、平成18年4月実績で59.0%、平成18年9月実績で64.0%に拡大

1 収支状況について

【単独】

料金収入は、902億円を計上

当期の道路資産完成高は、3億円を計上し、全て機構へ引き渡し済(新設、改築はなく修繕のみ)

道路資産賃借料の支払額は、703億円(計画通り)を計上

管理費用は、176億円を計上

営業利益は、道路事業で23億円、関連事業で1億円を計上

当期純利益は、法人税等8億円を差し引き、1,645百万円を計上

【連結】

高速道路事業営業収益は、907億円を計上

高速道路事業営業費用は、880億円を計上

関連事業営業収入は、6億円を計上

関連事業営業費用は、5億円を計上

全事業営業利益は、28億円を計上

当期純利益は、法人税等9億円を差し引き、2,010百万円を計上

2 財務状況について

【単独】

総資産額は、1,781億円(期首比 56億円の増)
(期首に比べ増減の大きいもの)

(資産)

・現金預金	86億円
・未収入金(通行料金等)	24億円
・仕掛道路資産	132億円

・受託業務前払金	27億円
・固定資産	5億円
(負債)	
・未払金(法人税等)	56億円
・受託業務前受金	25億円
・前受金	34億円
・長期借入金	106億円

借入債務は、1,050億円(社債63億円,借入金986億円)
 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「機構」)へ引継ぎ
 の対象となるものが958億円、会社の債務が91億円

【連結】

総資産額は、1,796億円
 (単独決算に比べ増減の大きいもの)

(資産)	
・現金預金	12億円
・固定資産	2億円
(負債)	
・未払金等	2億円
・短期借入金	8億円
・長期受入保証金	3億円

3 その他

会社承継資産額の誤りは、平成18年度中間決算において、過大計上額及
 び過小計上額の相殺額約1,000万円を営業外費用として処理
 機構承継資産額の誤りは、機構に対し、報告済

(注意点)

現在、会計監査人による監査中であり計数等において変更する場合があります。

阪神高速道路株式会社の平成18年度通期の見通し

- ・高速道路事業においては、補修工事等の完了が下半期に集中することから、下半期では営業費用が営業収益を上回る見込みであり、通期の営業利益は1億円となる見通しであります。

通期の見通し(単独)

(単位:億円)

	中間期(実績) (4月1日～9月30日)	通期(見通し) (4月1日～3月31日)
営業収益	911	1,875
高速道路事業	906	1,867
関連事業	4	8
営業利益	24	3
高速道路事業	23	1
関連事業	1	2
経常利益	24	2
中間(当期)純利益	16	4

注) ・通期見通しについては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものです。したがって、現実の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

・関連事業には上記以外に地方公共団体等からの受託事業があります。

通期の見通し(連結)

(単位:億円)

	中間期(実績) (4月1日～9月30日)	通期(見通し) (4月1日～3月31日)
営業収益	914	1,977
営業利益	28	8
経常利益	29	6
中間(当期)純利益	20	6

注) ・通期見通しについては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものです。したがって、現実の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

・上記以外に地方公共団体等からの受託事業があります。

・通期見通しは連結親会社と連結子会社の見通しを単純合算したものであり、内部取引の相殺等を勘案したものではありません。